分教場の跡を訪ねて その(一)

宇目町重岡小学校水ケ谷分校

高司良恵
（会員・佐伯市宇山区）

退職したら、佐伯・南郡（南海部郡）で自分が勤務しなかった学校・分教場（分校）廃校跡を、隈無く訪ねてみたい…これが私の夢でした。

殊に、南郡は他郡市に比べると小規模校・辺地校が海岸部・山間部共に多く、学校名・分校名を聞いても、どんな所だろうかと想像するばかりでした。

情熱と希望を胸に、張り切って赴任した新任教師は、あまりにも違う現実のきびしさに挫折し、止むなく去って行く…こんなケースが、辺地校や分校ではよくありました。

水ケ谷分校

・大正八年四月　重岡小学校水ケ谷分教場として設置され、校舎は「矢野末造」氏宅を仮校舎とした。

・大正十年二月　校舎新築

・昭和三年三月　廃校となる

理由は就学児童数の減少によるものか

・昭和二十三年五月　水ケ谷分校として再び開校さる。

・昭和四十七年三月　校舎新築（木造平屋建七四平方メートル）

・昭和五十四年三月　廃校となる。

是非一度訪ねてみたいと思う願望が叶い、国道十号線を南下、「宇目町大原」で右折、整備舗装された町道を重岡まで走る。そこから山峡に点在する集落をいくつか過ぎ、いよいよ水

水ケ谷に通ずる町道

ケ谷越の峠道、黒土峠（標高五五一メートル）にさしかかった。九十九折りの山道は段々高度を増し、ジーンと耳が鳴る。山手に沿って片方は千尋の谷…危険を感じて不安が募る。

漸く山頂に出た。車を止めて外に出る足が一瞬竦む。小休止のあと再び車を走らせる。下り坂をしばらく行くと里らしき所に出た。

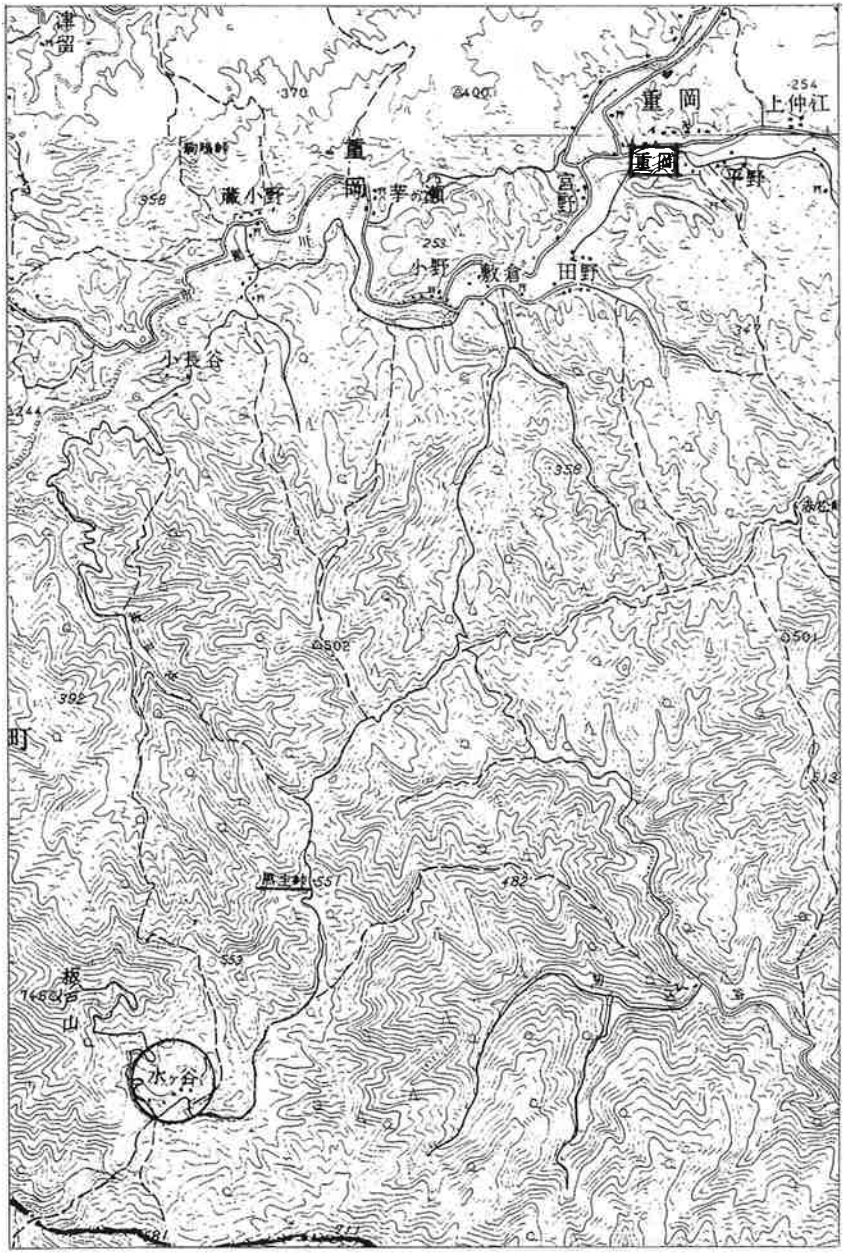
「ここが水ケ谷か」…思わず声が弾む。ひっそりとした盆地の中に、抱かれる様に何百年の歴史に息づいている家が数軒。早速分校跡を探すがそれらしき跡が見あたらない。開け放された家々に声を掛けてみるが、人影がなく全く反応がない。山仕事に出かけて、留守をしているのかと思いながら、可成歩きまわって調べてみたが、分校跡は確認する事が出来なかった。

重岡小学校水ケ谷分校に派遣される教師は一名で、分教場に続いて住宅があったという。当時、県より最高の辺地五級地として認定され優遇されていたが、本校に出向くのも朝早くから歩いて、約一〇キロの道程を峠を越えて行かなければならない時代であった。当時、複式で子どもは五、六人位いたのではないだろうかと思う。

大正・昭和にかけて、多くの子ども達を慈しみ育てた家族ぐるみの分校教育のぬくもり!!子ども達の嬉々とした声が山にこだましたあの頃!!今、ふるさと水ケ谷は過疎となってしまったが（平成七年九月末現在、五世帯十一人）父祖伝来の土地だけに、山林は大事に守り続けられている息吹が感じられ、整備された道路を始め、林野にもまた、どっしりと構えた家屋からも伝わってくる思いがする。

「再び来ることはないであろう。」と水ケ谷地区を振りかえる。静まりかえった山里に老鶯がしきりに啼いていた。タンポポの黄色い花、小川のせせらぎがなぜか心を和ませてくれた。

帰途につく。分校を巣立った水ケ谷の同朋達ひとりひとりの胸の中に、母校分校の灯火は消えることなく、永遠にもえつづけていくことと思いながら。


津留
370
400
重岡
上仲江
254
重岡
平野
宮野
蔵小野
358
芋の瀬
253
小野
敷倉
田野
小長谷
358
502
501
392
町
黒土峠
551
182
553
板
山
水ッ谷